

表題 反復性膝蓋骨脱臼の病態解明と手術成績-後ろ向き観察研究-についてのご説明

はじめに

反復性膝蓋骨脱臼の病態と治療に内側膝蓋靭帯の役割が重要であることは日本で発見され世界に発信されました。当科ではいち早く内側膝蓋大腿靭帯再建術を取り入れ改良してまいりました。この治療に関するデータを調査することにより病態の解明と患者さんの身体的特徴に合わせた最適な治療法の選択と手術術式の開発に貢献します。

研究対象

札幌医科大学附属病院、帯広協会病院、中野整形外科病院において2011年1月1日から2016年12月31日までに反復性膝蓋骨脱臼の診断で内側膝蓋大腿靭帯再建術を受けられた方を対象にしています。

研究内容

当科で患者さんの術前検査（身長体重、年齢、性別、X線、MRI画像、関節動揺性測定結果、理学所見、問診内容）と術後経過（筋力、理学所見、関節動揺性試験、X線、CT検査、再び脱臼ないしは不安感が出現したかの問診内容や5 択式患者立脚評価法）を手術手技、移植腱の選択、後療法（リハビリテーション）の違いとどのように関係しているか解析します。通常診療以上の検査を行うことはありませんので患者さんの費用負担は生じません。

患者さんの個人情報の管理について

本研究では個人情報の漏洩を防ぐため、個人を特定できる情報を削除し、データの数値化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取っています。まだデータファイルの保管はインターネットアクセスのできないPCにのみ保管しており解析もそこでのみ行われ持ち出しを行いません。本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

患者さんがこの研究に診療データを提供したくない場合の措置について

2011年1月1日から2016年12月31日までの間、札幌医科大学附属病院、帯広協会病院、中野整形外科病院で内側膝蓋大腿靭帯再建術を受けられた方の中で、この研究に診療

データを提供したくない方は、下記までご連絡ください。

研究期間

病院長承認日から平成32年12月31日まで

予定症例数

当院20症例（全体100症例）

医学上の貢献

研究結果は反復性膝蓋骨脱臼の病態解明と患者さんにあった治療法の選択や新しい手術方法の開発の一助になり、患者さんの治療と健康に貢献できます。

問い合わせ先 〒060-8543 北海道札幌市中央区南1条西16丁目

札幌医科大学附属病院整形外科

本院研究責任者 神谷智昭 同研究分担者 松村崇史 廣田亮介

平日、休日、時間外 tel 011-611-2111 内線 33330(教室)